

健身練（けんしんれん）豆知識

前回に引き続き、今回は鶴林寺（かくりんじ）の本堂について説明いたします。  
鶴林寺（かくりんじ）の門をくぐりますと正面に本堂があります。

---

本堂は1397年、約600年前に建てられたといわれています。  
平安時代以来の日本的な様式と、中国から伝えられた当時の最新技術の建築様式とが混じった建築物です。

本堂の内部には、本尊（ほんぞん）の薬師如来（やくしにょらい）とその両脇（りょうわき）に日光菩薩（にっこうぼさつ）と月光菩薩（げっこうぼさつ）が安置（あんち）されています。

室町時代は、鶴林寺がもっとも大きな勢力をもった時代です。  
戦国期には、2万5千石（ごく）の寺領（じりょう）をもち、300におよぶ僧堂がたちならび、多くの僧兵（そうへい）がいたともいわれています。

この時代に多くの建造物がつくられ、広大な寺領をもつようになった背景（はいけい）には、「太子信仰」の広がりがあったのではないかと考えられています。

しかし、信長（のぶなが）や秀吉（ひでよし）の時代になると、比叡山（ひえいざん）の焼き討ちや一向宗（いっこうしゅう）の石山本願寺（いしやまほんがんじ）との合戦（がっせん）にみられるように、仏教の力は急速に弱められ、鶴林寺の寺領も200石に減らされてしまいました。

加古川市中学校社会科研究会編より

本堂の中に祀（まつ）られています薬師如来（やくしにょらい）とその両脇（りょうわき）の日光菩薩（にっこうぼさつ）と月光菩薩（げっこうぼさつ）は、60年に一回しか見ることができません。

毎週土日の早朝気功のあと、本堂に上がり、お参りをさせていただきますが、夏でもヒンヤリとして不思議な感じを体験することができます。